

The logo for Osaka AsoBo is displayed. It features the word "OSAKA" in black capital letters. Below it, the Japanese characters "あそび" (aso-bi) are written in a colorful, stylized font: "あ" is green, "そ" is blue, and "び" is pink. To the right of "あそび" is a small red character "ほ" (ho). Below the main text, there are two blue sneakers with white laces and white soles. At the bottom right, the word "ASOBO" is written in black capital letters, followed by a registered trademark symbol (®).

大正12年(1923)淀川末流の木津川尻埋立地に、我が国最初の本格的な民間飛行場「大阪木津川尻飛行場」が開設。当初は水上飛行場でしたが、すぐに陸上機機能を持つようになり、大正13年(1924)には「春風号」(川西K6型)が、我が国初の日本一周飛行に成功しています。その後、航空局が船舶の軍用地と私有地を飛行場用地に内定。389,400平方メートルを整備して昭和4年(1929)に日本初の公共飛行場「木津川飛行場」(大阪飛行場)として供用を開始しました。昭和4年(1929)には東京・大阪・福岡を結ぶ定期旅客便が開始され、「エアガール」(スチューワーズ。客室乗務員)第1号も、木津川飛行場から誕生しました。運賃(当初)は大阪～高松間が40円という記録が残っています。昭和13年(1938)には定期の年間発着回数5,107回、不定期3,676回、旅客10,124人、取扱貨物38,700余キログラム、郵便97,700余キログラムと当時のレコードを記録。しかし発着数がキャパシティを越えたため、昭和14年(1939)、大阪第二飛行場(伊丹飛行場)に移転。あえなく閉鎖されました。現在、中山製鋼所構内に飛行機格納庫が残っています。

慶長15年(1610)に中村勘助が木津川に豊臣家の車船係所を建設。同時に堤防を築いて新田開発を行い、豊臣家より勘助島(現・大正区三軒家)の名が与えられました。元禄12年(1699)に河村瑞賢が難波島を開削して木津川の水流を改良。宝永5年(1708)に幕府が木津川口遠見番所を設けると、諸国の船で賑わって木津川は大坂経済を支える大動脈となり、朝鮮通信使の船なども出入りしました。天保3年(1832)には航行改善のために木津川口に870間の石堤を築いて松を植えて、これが千本松として一躍、浪華名所にもなっています。しかし水運の良い安治川が出来てからは航路の主導権を奪われ、大正元年(1912)の川筋の停泊数では、安治川が2,221隻、木津川1,336隻、尻無川1620隻という記録が残っています。その後、第一次世界大戦の造船ブームや自動車工場の進出で近代化していきました。

元亀元年(1570年)、石山本願寺と織田信長が石山合戦を開始。天正4年(1576年)には石山本願寺側についた毛利水軍600隻と信長方の久鬼嘉隆300隻が木津川口で戦いましたが、信長方が多くの船を焼かれて大敗。毛利水軍は石山本願寺内に兵糧・援兵を運びました(第一次木津川口の戦い)。この敗戦に激怒した信長は、嘉隆に対して燃えない船を造るように命じ、嘉隆は船に鉄を貼った鉄甲船を建造。天正6年(1578年)に嘉隆率いる6隻の鉄甲船と毛利水軍が再び木津川口で戦い、見事に毛利水軍を撃破しました(第二次木津川口の戦い)。この海戦で石山本願寺の孤立化と織田軍の優位が決定的になり、石山合戦は終結に向かっていきます。

明治16年(1883)、三軒家の大阪紡績会社(現:東洋紡績)がイギリスより日本初の蒸気式の紡績機を輸入すると、大阪は日本一の紡績工業都市となり、「東洋のマンチェスター」とも呼ばれました。その後、船町に造船所や製鋼所などが作られて、阪神工業地帯の重工業集積地に姿を変えました。現在でも中山製鋼所や日立造船の工場群が立ち並んで見るものを圧倒されてくれます。また平成元年(1989)公開のアメリカ映画「ブラック・レイン」(監督リドリー・スコット)のロケ地にも選ばれています。

藤永田造船所は前身を「兵庫屋」といい、元禄2年（1689）、大坂堂島船大工町に船小屋として創業しました。日本最古の造船所で、明治維新以後は近代的造船所に脱皮。日本海軍の艦艇や鉄道車両を製造して、とくに駆逐艦建造では有名で「西の藤永田、東の浦賀」と呼ばれました。戦後も貨物船建造、LPG船建造などを行っていましたが、昭和42年（1967）、企業競争力強化のため三井造船に吸収合併されて、278年の歴史に幕を閉じました。戦前の船町には藤永田以外にも、旭造船、原田造船、新田造船などが集積していました。

織田水軍の安宅船は、全長約40mといわれ、その空前の巨大さで毛利水軍を圧倒、火の矢も乗り移りも通じず、毛利水軍は敗北した。

祝！
日本一周
川西K6型春風号
複葉水上艇で！

まさに重工業! 男のロマン!

明治16年(1883)、三軒家に大阪紡績会社(現:東洋紡績)が設立されると、大正区は日本一の紡績工業都市となり、大阪は「東洋のマンチェスター」とも呼ばれました。近代化の波は船町・鶴町にも押し寄せ、日本初の公共飛行場や造船所、自動車工場などが設立。阪神重工業地帯の一翼を担いました。いまでもその痕跡をとどめる船町工場群は必見です!

大正15年(1926)、大阪市が4年間の市税免除など好条件を提示して、アメリカの自動車会社GMの誘致に成功。昭和2年(1927)に当地に日本GM株式会社が設立しました。当時の日本の工業水準では、質の高い部品作りは不可能で、部品や組立機械などは全てアメリカから持ち込まれ、アメリカ人の監修で日本人労働者が従事しました。シボレーブランドの貨物自動車、乗用車の生産がメインで、年間約1万台を生産。「販売の神様」といわれたトヨタ自動車初代社長の神谷正太郎なども日本GMで販売広告部長を担当して、昭和10年(1935)にトヨタに移籍しています。しかし昭和11年(1936)の自動車製造事業法施行で国産メーカーが優遇されて工場は衰退。昭和16年(1941)、撤退しました。ちなみに鶴町東側の恩加島にはクボタ恩加島工場がありますが、クボタ創業者・久保田権四郎が大正8年(1919)に出資して作られたのが「実用自動車製造株式会社」です。大正15年(1926)に快速社と合併して「ダット自動車製造」となり、日本初の国産自動車メーカーとして日産自動車の前身となりました。

鶴町地域は大阪市の築港計画（明治20年～昭和3年）の埋立てで造成されました。難波宮近くの光景を田辺福麻呂が詠んだ「潮干ばた 葦辺に騒ぐ 白鶴（百鶴とも）の 妻よぶ声は 宮もとどろに」（万葉集巻6・1064）から町名が名付けられました。昭和5年（1930）から昭和11年（1936）まで中央気象台大阪支台が設置され、昭和9年（1934）の室戸台風も観測しています。

こんな型のシボレーを
生産していました。カッコイイ!

後陽成帝(1571～1617)時代に京都・西院に祭られましたが、徳川家康の外孫・松平忠明が大阪の陣のさいに参拝。見事に戦勝を収めて忠明は大坂城主となり、これは神明神社の靈驗なりと元和2年(1616)に蛸堀町(後の内平野町)に遷しました。日中神明社と称されて、朝日神明社(此花区)、夕日神明社(北区)と並ぶ大阪三神明のひとつです。かつては広大な社地を誇りましたが時代の変遷で狭小し、松屋筋拡張工事のさいに、鶴町住民の熱烈な請致によって、大正13年(1924)に鶴町に遷座しました。戦災によって社殿、社務所、倉庫、祭具、書画宝物、神社の記録一社を焼失しましたが、昭和52年に本社敷を再建しています。

平成15年(2003)完成。海面からの高さ28メートル、橋長365メートルです。晴れた日には生駒、金剛、六甲の山並みがよく見えて、市内では通天閣、昭和山なども見えます。大正時代に架けられた旧橋を内港造成時に架け替えしました。鶴町に千歳橋の碑があります。

「浪花渦 潮干に立ちて 見わたせば 淡路の島に 鶴(たつ)渡る見ゆ」(万葉集 巻七 詠み人しらず)の石碑です。このあたりの海辺から遠くを見わたせば、淡路島の方に鶴が飛んでゆくのが見える。古代に広がる美しい難波の海の光景を、いまの正の海に重ねてみてくだい。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ步」事務局 電話06-6282-5930（財団法人大阪コンベンション協会内）「大阪あそ步」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。http://www.osaka-asobo.jp または でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2~3km、2~3時間
程度を基準として作成されています。